

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 1月 27日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271401087		
法人名	社会福祉法人 恵光会		
事業所名	グループホーム 南串山荘		
所在地	長崎県雲仙市南串山町丙 10719 番		
自己評価作成日	平成 25年 11月 21日	評価結果市町受理日	平成 26年 2月 13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 1月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

施設が高台にあり町内が一望でき、とても良い眺めで心の安らぎにつながっています。敷地内に他施設が併設されており、行事や遊びに行くなどを通して交流を行いなじみの関係が継続されるように勤めています。

また、整体師の資格を持った職員を配置しており、整体手技により可動域訓練、歩行訓練など皆さんの機能回復やマッサージにて心身のリラックス効果を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

地域の作物の色づきや季節の移ろいを眼下に眺め、地域の風を感じながら生活できる落ち着いた環境にある当ホームは、敷地内に法人事業所が複数並んでいるため、隣接する他事業所との行事や交流を多く持つことができ、入居以前の馴染みの友人との関係を継続しやすい環境にあるため利用者の心の安らぎともなっている。他部署との繋がりから情報の共有や行事、イベント等の協力体制が築きやすい事も併設の大きな強みである。

経験を積んだ職員により、これまでの実績を生かしながら、入居者がホームでの生活になりがちな部分を、視野を外に向ける事により一層地域へ出る機会を増やしていきたいと力強く語る姿から、地域に根差した、地域と共に生活できるホームとして、ますます期待の持てるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを目指し「利用者の思いを受け止め寄り添い心地よい生活を支援してゆく」という理念を職員の目の届く場所へ掲示意識をしてケアに取り組んでいる。	人を尊い個を尊重し、真心を持って接することを基本とし、言葉遣いや入居者の表情観察、傾聴の姿勢を大事にする取り組みを行っている。常にその人を知ることが大事にされており、入居者と職員が笑顔でふれあう様子から理念の浸透が感じられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事等に参加している。また老人会や保育園の慰問など積極的に行い地域との交流につなげている	管理者は地域に出る場を増やし、地域との交流の場を多く持ちたいと今年度は特に外出支援を多く取り入れた。地域の運動会や文化祭に参加することで、地元の方との交流を多く持つことができ入居者の笑顔にも繋がった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加いただいた地域代表、民生委員、市職員など実践している認知症ケアや体験を報告したりしてご理解をいただいている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を必ず行い利用者の近況報告や今後の取り組みなど意見交換を行いより良いケアに繋げていけるよう努力している	運営推進会議には家族が輪番制で参加されており、管理者が入居者の状況や活動内容を伝え、具体的な意見を投げかける事で屈託のない意見を頂いている。避難訓練の状況を伝えた際には家族の思いを伺う事ができ、より一層強い防災意識に繋がった。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議での意見交換や必要に応じて相談、協力していただけるよう働きかけている	運営推進会議を通して、地域唯一のグループホームとして、情報発信や情報交換を行っている。管理者は市のグループホーム連絡協議会の広報係として尽力し、横の繋がりを深めることでホームが抱える問題や対応方法等の情報収集を行い、円滑な解決に繋げるようにしている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束における様々な研修、シンポジウムに参加し身体拘束0を目指し職員との意思の統一をして取り組んでいる</p>	<p>今年度は特に言葉による拘束を意識し、月目標を掲げながら支援を行った。「ダメ」の理由を明確に本人に伝え、また何故そのような行動をとるのか、行動の理由を理解し、いかに安心して気持ちよく過ごして頂くか常に振り返り支援に繋がられている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員一同、どんな些細な事でも利用者様が不快に思われることを虐待と捉え職員同士、注意しあえる関係を築き虐待につながる前に防げるよう心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>研修会に参加することで知識を深め、必要に応じて活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や入居後でも必要に応じて丁寧な説明を行いご理解と協力していただけるよう支援している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話連絡の時などご要望が無いか聞き取りを心がけているが遠慮されてか、「今のままでいいです」という答えがほとんどであるためもつとご家族を信頼関係を築けるよう努力したい</p>	<p>家族からの意見は自分達の成長に繋げる大事なものとして捉え、常に家族がどのように思っているかを踏まえながら支援されている。個人記録には家族へ報告した事、家族が反応した様子を詳細に書き留める事で家族の思いの理解や職員への周知へと繋がられている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員会議で挙げた疑問、改善点など代表者会議で取り上げ検討し意見を反映させている。</p>	<p>日頃から入居者の処遇や気付きを会話やミーティングで話し合い、最善の方法を共に考え成長に繋げるようにされている。お互いに自分ない才能や得意分野をお互いに認め、生かす事で、入居者の生活の楽しみにも繋がられている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>面談制度導入し各自の目標設定やアドバイス、相談などを行い向上心を持って仕事に取り組んでもらえるようにしている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修や地域で行われる研修に参加し勉強する機会を多くしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>雲仙市や島原半島の連絡協議会の研修や交流会に参加し交流や意見交換を行っている</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>傾聴を大切にして利用者様の思いを受け止めや代弁して安心して生活できるように努めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>すぐに契約ではなく見学していただき他の施設と比べていただいたり、自分たちができる事できないことの説明をしっかりと行い納得されたうえで要望や意向を傾聴し解決に向け話し合っている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、ご家族と必ず面会を行い要望に添えるか見極め、他のサービスがふさわしいのであれば紹介するようにしている</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や作業などできることは自分でしていただき助け合いの気持ちを持ってもらい自尊心を大切にしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より情報交換を行いご家族に利用者を身近に感じていただき協力が必要な時など協力体制を築けるように努め一緒に利用者を支えて行けるような対峙を心がけている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人が法人内のサービス利用日など面会したり地域の行事や催し物へ出掛けている	敷地内に他事業所があり、友人の利用日には気軽に通所へ顔を見に出かけることもできる事から、入居者の心の安らぎにも繋がっている。外出支援として地域の祭りに出かける事で知人に会う楽しみも増え、利用者からも喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中には入居者同士、気が合わない方々がいらつしやる為、職員が間に入り会話の箸渡しを行い利用者様が孤立しないよう心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先でお会いした時は声をかけさせてもらい近況をうかがっている。また施設での行事などお誘いを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中や表情などから本人様の思いを見逃さず本人に確認を行いながら理解し職員全員で思いを共有するようにしている	日頃の関わりの中でその方を知ることが大事に考え、より安心して笑顔になる支援に繋げる事ができるよう心がけられている。昔の知人の情報から、できる部分の可能性を引きだし、その人らしく、生活の張りに繋がる支援に努められている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人やご家族などから今までの暮らしや歴史、馴染みな事など伺いして把握している		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々のケアで気づいたことや疑問に感じたことを話し合い共有している。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで意見交換、情報交換を行い、利用者にもっとも必要なニーズを抽出している。	介護記録にはその方の支援に重要なキーワードを掲げ、毎日の支援の中でより具体的なサービスの提供に繋げることができている。ケアを提供した際の反応を詳細に記録していくことで新しい発見に繋がる事もあり、新しいニーズの抽出により入居者本位のプランに繋がるように、日々支援されている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙にバイタルや様子、心身の状態に至るまで記入し職員が確認し共有を図っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて様々なサービスや他職種と連携し柔軟な対応が出来るよう心がけている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や老人会、婦人会の慰問や交流を通して楽しみをもつて生活を送ってもらえるよう支援している。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の信頼されている主治医を引き継ぎ受診できるように支援している。またその医療機関と連携が取れるよう連絡、相談など密接な関わりを築けるようにしている。	ホームより受診を支援され、受診後に家族へ結果を伝える事で安心と信頼が得られている。個人記録や連絡帳に日々の様子を詳細に記録することで状況の変化の把握がしやすく、医師との連携がスムーズに行われる体制づくりがなされている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常の気づきや情報交換を密に行い相談しながら受診や治療を受けられるよう支援している		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報提供を密に行い安心して治療に専念できるようにし早期退院に向け相談や協力に心がけている		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末期のあり方について話し合い数回にわたり意向の再度確認をして方針を共有していくようにしている	これまでに看取りの経験はないが、急な体調変化への対応方法等、看護師に相談し適切な状況判断ができるよう体制作りがなされている。重度化への対応に関してはチーム全体で取り組む必要性を感じており、今後勉強会を重ね知識を深めていく予定である。	本人や家族、職員の不安軽減のためにも医師との更なる連携を強めながら重度化に対する知識を備え、今後看取りに対する準備体制を整えられていかれることを期待したい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初級救急救命講習を定期的受講し急変や事故発生時に適切に対応できるよう取り組んでいる		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防避難訓練を実施し手順について訓練している。また災害時に対する想定を職員で話し合い確認を行っている	年に2回合同避難訓練を行い、避難の仕方や手順の確認を行っている。出火場所の想定を毎回変える事で具体的な避難誘導方法を考えるきっかけとなっている。今年度は備蓄品の整備を職員で検討し、更に入居者の状況に応じた水や食材、備品の準備を検討したいとされている。	より強固な防災体制にするために自然災害に対する訓練の必要性と、地域性を考慮したうえで災害対策に関して地域住民への協力体制構築に向けより、一層の理解と働きかけが必要と思われる。今後の取り組みに期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にプライバシーに配慮したケアを心がけている	今年度は言葉遣いや接遇マナーに注意を払い、声の大きさや排泄介助時の羞恥心への配慮、問いかかけの仕方等声を掛け合う事で対応が改善された事例があった。入居者の訴えには一旦手を止め、連携をとりながら職員の都合で動かないよう気配りされている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から傾聴を心がけ信頼関係を築き遠慮なく自分の意思を表出できるようにして必ず本人に確認をとるようにしている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様より優先されるものは無いと職員が共有し一日一日をその人らしく生活できるよう支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日を気持ちよく過ごしていただけるようご本人の好みを取り入れながらおしゃれを楽しんでいただいている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やお盆拭き、テーブル拭きなど利用者が出来る事を続けて皆さんで作った食事と思っていただけるよう支援している	調理の際には混ぜる作業等入居者が出来る部分はお手伝い頂き、食事を通して会話が弾むよう工夫されている。地元の根菜や葉野菜の差し入れも多く、季節感を多く取り入れた彩りの良い献立は入居者からも好評である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた献立を作成している。摂取量など記録し職員が把握できるようにしており水分も小まめに摂っていただき色んな飲み物を取り入れ楽しんでいただいている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の計4回の口腔ケアを行い衛生と異常がないか確認を心がけている	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のサイクルを利用者一人一人把握し声掛け誘導を行い失敗につながらないように配慮している	入居者の表情や仕草、一日の水分摂取量など職員間で情報を共有し、トイレへのサインを察知することでそれぞれのペースで排泄できるようになった。できるだけ紙パンツを使わないよう工夫したことで、取り組みが入居者の自信や信頼関係の構築にも繋がった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や適度な運動、水分補給を行い自然な排便ができるよう取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが利用者様がゆっくりと入浴が楽しめるよう入浴日を増やすなどして対応している	入居者の希望に沿った入浴頻度や時間帯の選択が可能である。午前中であれば大浴場での入浴もでき、入居者からも大変喜ばれている。入浴日以外には毎日足浴が支援され下肢の血行改善にも繋がり、細かな配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、リビングで皆さん過ごされることが多いが和室に横になったり自室で休まれたりと思いつきに休息がとれる支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状書をそれぞれ職員が確認すると共に個別日誌に閉じてあり必要に応じてすぐに確認できるようにしている		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者一人一人に応じた役割作りを行い張り合いと自信回復につなげている。また毎月一回入居者集会を行い行事予定や利用者の希望を聞きながら実施するようにしている</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>毎日、出掛けることはできないがドライブやピクニックへ出掛ける時など希望を聞きそれに添えるよう支援している</p>	<p>今年度は特に外出支援に力を注ぎ、地域や季節に触れる機会を大事にした。できるだけ入居者の希望に添いたいと受診の帰りに利用して個別に買い物に出かけたり家族との外泊や外出の機会も大事にできるよう支援されている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族からお金を預かり、ご本人様のご希望されるものがあればご家族に相談して購入するようにしている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご希望により電話や手紙のやり取り（代筆）など連絡できる体制をとっている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>掲示板などに季節ごとの飾りや作品を飾り季節感や安堵感を感じていただけるよう工夫している</p>	<p>掲示板には季節の飾りや活動での作品があしらわれ、入居者の安堵感や自信に繋がる気配りが感じられた。また炬燵が据えられた和室には仏壇が供えられ、入居者が手を合わせることもでき、心の安らぎに対する配慮も窺われた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや和室などを活用し利用者同士おしゃべりやお茶などを楽しまれている</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースに応じて希望のものを持ち込んでいただき自宅であるような居心地よさを感じていただけるよう努力している	明るい日差しが差し込む居室には、手作りの作品や手回り品が持ち込まれ自宅にいる雰囲気を大事にし、思い思いの時間に部屋に戻り、寛ぎの時間を持つことで安心した時間を過ごせるようにされている様子が窺われた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや場所が分かるよう案内板を設置し安全と安心を両立でき自立できるよう心がけている		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない